

TAB LET'S VOL.1

救急車を呼ぶその前に（小児・乳幼児編）

みなさんは、救急車をどのような時に呼べばいいのかご存知ですか？
今回は小児や乳幼児を様子がおかしいときに、救急車を呼ぶ必要のある場合と必要のない場合をしっかりと判断できるよう、適切な救急医療の受診の仕方についてお伝えしたいと思います。



こんな症状が出たら、すぐに救急車を呼ぼう！

<全身>

頭を痛がる
けいれんがある（続く）
意識がない

<呼吸>

激しい咳、
普段と呼吸の仕方が違う
ゼーゼーいう
呼吸が苦しそう
犬の遠吠えのような呼吸
呼吸をしていない



<お腹>

激しい下痢
便に血が混ざっている
お腹の一部が突き出ている（ヘルニアの兆候）

<その他>

全身にじんましん（発疹）
出血が止まらない
広範囲のやけど
交通事故
水に溺れた
高所から転落した
飲み込み（タバコ、薬、先の尖ったものなど）

上記の症状以外・・・まずは#8000へかけてみよう！



小児救急電話相談（#8000）
千葉県：毎日／午後7時～午後10時

電話で対処法の
アドバイスが受けられる



子どもは、大人のコピーではありません！

脈拍数	: 120～140	80～90	60～80
呼吸数	: 30～40	18～20	15～20
血圧	: 100/60	105/70	120/80



乳児



小児



成人

子どもと大人では、血圧も脈拍も全然違います！
「自分とは違う」ということを忘れないようにしましょう。

救急車は限りある医療資源です。救急車を呼べば必ず来てくれるとは限らないのです。一人でも多く、このような知識をもって冷静な判断ができれば、いざ本当に必要な時に救急車が使えます。